

ヨークシャー・テリア

	改正	現行
■用途	<u>コンパニオン・ドッグ</u>	<u>テリア</u>
■沿革	<u>ヨークシャー・テリアはエアデール・テリアと同じ場所で生まれた犬種で、1850年代頃に初めて見られた。ヨークシャー・テリアの背景には古いブラック・アンド・タン・テリアが存在し、マルチーズやスカイ・テリアのような他の犬種も交えて作出された。現在の犬種名は1870年に承認された。狩猟本能を含め、この犬種のテリアのような性質から、家の中では玩具、庭ではげっ歯動物のようである。</u>	<u>19世紀の中ごろ、ヨークシャー地方の工場地帯で工員や炭鉱夫の貧しい家屋を荒らし回ったネズミを捕らえるため作出された犬種で、当時はかなりの大きさだった。</u> <u>1862年「ブローケン・ヘード・スコッチ・オア・ヨークシャー・テリア」と命名されたが、犬種名が長すぎたため定着せず、1870年ごろからヨークシャー・テリアと呼ばれるようになった。</u> <u>この犬種を作出するために使用されたのはマンチェスター・テリア（オールド・ブラック・タン・テリア）、スカイ・テリアマルチーズだったといわれている。</u> <u>その可憐なタイプと華麗な毛色から「動く宝石」とも呼ばれている。世界中で人気犬種となっている。</u>
顎/歯	<u>上歯は下歯と密接に重なっており、顎に対して垂直にきちんと生えている。</u>	<u>歯は顎に対して垂直に、きちんと生えている。</u>
腰	<u>よく支えている。</u>	<u>よい腰をしている。</u>
■ボディ	<input type="checkbox"/> 胸 <u>肋は適度に張っている。</u>	<input type="checkbox"/> 肋 <u>程よく張っている。</u>
■尾	<u>断尾されている場合：</u> <u>断尾されていない場合：</u> <u>できるだけ真っ直ぐである。長さによって外見のバランスがよく取れている。</u>	<u>断尾する場合：</u> <u>断尾しない場合：</u> (末尾追加)
■四肢	<input type="checkbox"/> 前軀	<input type="checkbox"/> 前肢

<p><u>上 腕</u> <u>真っ直ぐである。</u></p> <p><u>前 足</u> 丸く、爪はブラック。</p> <p><u>□後軀</u> <u>スタイル (膝)</u> <u>程よく曲がっている。</u></p> <p><u>後 足</u> 丸く、爪はブラック。</p>	<p><u>□後肢</u></p>
<p>□毛</p> <p>ボディの部分は<u>適度</u>に長く、完全に真っ直ぐで (ウェーブでない)、光沢がある。<u>きめ細かな絹糸状の毛質</u>であり、ウーリーではなく、<u>決して歩様の妨げにはならない</u>。<u>頭部の毛は長く、鮮やかなゴールドン・タン</u>であり、<u>頭部の両側で色がより濃くなる</u>。耳の付け根とマズルにかけてはたいへん長くなくてはならない。頭部のタンは頸まで伸びず、<u>すすのような、またはダークな毛がタンと混ざってはならない</u>。</p>	<p>ボディの部分は<u>かなり長く</u>、完全に真っ直ぐで (ウェーブでない)、光沢がある。<u>立派な絹糸状の毛質</u>であり、ウーリーではない。頭部の両側で色がより濃くなる。耳の付け根とマズルにかけてはたいへん長くなくてはならない。頭部のタンは頸まで伸びず、<u>黒っぽい、又はダークな毛はタンと混ざってはならない</u>。</p>
<p>□毛色</p> <p>タンの毛は<u>中間よりも根元の部分が濃く</u>、</p>	<p>タンは根元の部分が濃く、</p>
<p>□体重</p> <p><u>3.2kg</u> まで。</p>	<p><u>3.1kg</u> まで。</p>